

大学名 情報・システム研究機構 統計数理研究所

第74号 特集タイトル
「未来社会に向けた教員養成」

表題 社会に新たな価値を創出するデータサイエンス・統計科学の専門教員の育成

【大学統計教員育成研修の骨格】



大学統計教員育成研修 ～基本的な考え方～

- 1. 主たる目的は、大学統計教員の育成**
～ 統計学者の育成ではなく、育成対象者の専門分野を尊重
- 2. 修士課程学生に対する4科目の講義を可能にする**
～ 「基本的な統計学の講義」・「発展的な統計学の講義」・「専門分野と統計学が融合した講義」(2科目)
- 3. 研修の基本は、講義体験の繰返しと達成度の確認**
～ 達成度WG(育成対象者・研修担当教員・メンター・副メンター等)により、各育成対象者の研修進捗状況・達成度を確認
- 4. 育成対象者の研修計画・研究計画を、半年ごとに策定**
～ シニア教員は、全員で互いに協力して研修をサポート
- 5. 教員育成の方法を開発する**
～ 模擬講義を通して大学における教育方法の改善を模索

【教員育成の背景】

最近、データサイエンス系の学部・学科を新設する大学が急増している。このような中で深刻な問題となっているのが、データサイエンスの中核を成す「統計科学」の専門教員の不足である。

【大学統計教員育成研修とは？】

これに対応するため、統計数理研究所は、全国の大学等が参画するコンソーシアムを2021年に設立し、各大学等に所属する若手研究者(様々な学術分野の助教等)に対して、2年間の「大学統計教員育成研修」を実施している。これにより、全国の大学や大学院で統計科学を教育し、データを活用した研究を指導できる教員を育成している。

【教員育成の特色】

研修は、「修士課程学生に対する4科目の講義を可能にすること」などの5項目を基本的な考え方・目標として進めている。

大学教員を育成するという他に類を見ないこの研修の基本は、講義体験を繰り返すことである。研修生が教員役となり統計科学の各分野等の講義を行い、他の研修生が学生役となり質疑を行う「模擬講義」を繰り返し体験することにより、研修生の教育力や教材開発力は格段に向上する。

【教員育成の成果】

このようなコンソーシアムの取組を通して、全国の大学における統計科学の教育方法の改善にも寄与したいと考えている。すでに、2023年9月に第1期研修を修了した若手研究者は、所属する大学で統計科学の教育や研究指導に大きく貢献しており、各大学から高い評価を得ている。

【参考URL】

大学統計教員育成研修とは

<https://stat-expert.ism.ac.jp/training/outline03/>